お母さんの思ひ出

土田耕平

青空文庫

私が十一か二の年の冬の夜だつたと覚えてゐる。お父さんは役所の宿直番で、私はお母さんと二人炬燵にさしむかひにあたつてゐた。背戸の丸木川の水も、氷りつめて、しん〳〵と寒さが身にしみるやうだ。お母さんは縫物をしてゐる。私は太閤記かなんぞ読みふけつてゐる。二人とも黙りこくつて、大分夜も更けた頃だつた。

「孝一や。」

とお母さんが呼んだ。私は本が面白くて、釣りこまれてゐたので、

「ええ。」

と空返事をしたままでゐると、

「孝一や。」

とまたお母さんの声がする。私は読みさしの本を置いて、顔をあげた。お母さんは、ぽつと頬を赤らめて、（これはお母さんのいつもの癖だつた）

「あのね、お前熟柿を買つて来ないかえ。」

といふ。

「ええ?」

と私は聞きかへした。お銭をいただいて買ひ食ひをしたことなど、一度だつてなかつた。まして、お母さんから、そんなことを云ひ出したことなどあらう筈がない。

私は何だか偽のやうな気がして、ぼんやりお母さんの顔を見てゐると、

「あのね、熟柿を一つ買つてきておくれよ。おいしいだらうと思ふから。」

とお母さんは、顔を赤くしてまた云つた。

かりかりと氷つた冬の熟柿ほど、身にしみておいしいものはない。私は田舎の親戚で食べたことが幾度もあるので、お母さんに云はれると、あのざつくりと、歯にさはつてくる味がたまらなくなつてきた。

「ああ買つて来るよ。」

と答へて、炬燵からはねおきた。お母さんは、箪笥の抽斗から、五銭玉一つ出して、

「これで、大きなのを一つ買つておいで。」

と云つた。

私の家は、細い露路の奥にあつて、門燈一つついてゐるきりで、うす暗いところだ。そこから二三町ゆくと、大通がひらけて、まぶしいほど明るい。私は五銭玉をしつかり握つた手を、ふところへ入れて駈けて行つた。頬ぺたがちぎれるやうに冷たい。

大通へ出たすぢかひに、果物屋のあることは、よく知つてゐたけれど、ふだん買ひつけたことなんかないので、何と云つてよいか、すぐ言葉が出ないで、私は黙つて店さきに突立つてゐた。すると店の爺さんから、

「坊ちやん、何ですい。」

と云はれ、私は少しまごついてしまつて、

「か、かき。」

と云つた。店さきには、蜜柑やバナナが山のやうに積んであつて、柿なんか見えなかつた。

「はい、これが二銭、この大きい方が五銭。」

と爺さんの指さす方を見ると、店の隅の方に、たんとはなかつたけれど、うす皮の真赤に熟した柿が山盛にしてあつた。

私は大きい五銭のを一つえりとつて、氷のやうに冷たいやつを、両手でつぶれないやうに握りしめて、駈けてかへつた。

お母さんは、炬燵の上に庖丁とおこがしを、用意してゐた。おこがしは柿へつけて食べるのだ。

お母さんは、柿を二つに切つて、大きい分を私の前において、

「さあ、お食べよ。」

と云つて、小さい方を自分で小口に食べながら、

「ああ、おいしいわね。」

と云つた笑顔が、電燈のかんかんしてゐる光にうつつて、うつくしく見えた。私もほんとにおいしかつたけれど、何とも云はなかつた。熟柿を食べてしまふと、すぐに読みさしの太閤記をひらき、お母さんは縫物をはじめた。それから後のことは、おぼえてゐない。もう二十年余りも昔のことだから。

お母さんは今は生きてはゐない。そして、一生不幸に過ぎた人だといふことを今になつて、私はよく知つてゐる。だからあの時、幼い私と、一つの熟柿を半分わけにして、いかにも、おいしさうにして食べたお母さんの顔を思ひ出すと、何だか悲しくなつてならない。半分わけにした大きい方を、お母さんにあげればよかつたに、などと考へるのだが、も早遠い昔のかへらぬ夢になつてしまつた。

青空文庫情報

底本：「日本児童文学大系　第九巻」ほるぷ出版
　　1977（昭和52）年11月20日初刷発行
底本の親本：「原つぱ」古今書院
　　1928（昭和3）年4月
入力：川山隆
校正：noriko saito
2013年11月5日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

お母さんの思ひ出

土田耕平

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/